

View from Down Under

文・ハイランド真理子

写真/レーシング・ピクトリア
ハイランド・サラブレッド・サービス

グローバルスプリントチャレンジ&アジアマイルチャレンジ オーストラリアラウンド

■グローバルスプリントチャレンジの シリーズに英国ジュライCを追加

また馬インフルエンザの話かと、日本人には言われそうだが、オーストラリアでは、やはりまだ馬インフルエンザの影響が残っている。グローバルスプリントチャレンジが行われた2月2日(土)は、ピクトリア州とニューサウスウェールズ(NSW)州、クインズランド州境は閉鎖され、2006年のシリーズチャンピオン、テイクオーバーターゲットが、厩舎のあるNSW州から出ることができず、シリーズ第1戦のライトニングステークスには参加が出来なかった。

さて、今年のシリーズは、フォーマットがいくつか変更された。まず、英国のGIダーレー・ジュライカップが追加され、これまでの2つのレースも、キングズスタンドステークスはGIに格上げとなり、ゴールドエンジュビリーステークスは賞金がアップされた。そして、オーストラリアでの第2戦目は、11月に開催されるGIジ・エイジクラシックに変更され、メルボルンカップ・カーニバルが開かれるプレミントン競馬場で実施されることになった。英国と日本で勝利した馬たちが、オーストラリアで再び戦うことができるという、新たな魅力が付け加えられたのである。

この新しいフォーマットについて、英国ニューマーケットのハンコック女史は、「ダーレー・ジュライカップは、英国の伝統的な真夏のチャンピオンズプリントレースで、ここに参戦する馬たちは、ほとんどが、ロイヤルアスコット競馬場でのスプリントレース(キングズスタンドS、ゴールドエンジュビリーS)に出走しています。今回の変更で、英国のこの3つのレースを勝つと、1万ポンド(約

200万USドル)が獲得できるということになります」と語る。そして「できれば、ヨーロッパのチャンピオンズプリント馬たちが、このあと、日本、オーストラリア、そして香港で戦うことができれば、このシリーズは、正に、本物の国際ショナルシリーズになるでしょう」とも言っている。

また、オーストラリア、レーシング・ピクトリアのリー・ジョーダン氏は「オーストラリア最大の競馬カーニバル期間中のダービーデーに、今年のグローバルスプリントチャレンジ、オーストラリアの第2レースが開催されるのは本当に喜ばしいことです。これで、スプリングレーシングカーニバルも、さらに、国際ショナルになっていきます」と語った。ジュライカップは、ご存知のように、2000年に日本馬アグネスワールドが優勝しているレース。このレースが加わったことで、もしかすると今年には日本からの参戦もあるかも知れない。

■第1戦は豪州ライトニングS

さて、そのグローバルスプリントチャレンジの、第1戦目は、メルボルンのプレミントン競馬場で開催されたクールモア・ライトニングステークス。このレースは、これまで2003年にショウジョール、2006年にテイクオーバーターゲット、そして昨年のミスアンドレッティが優勝している様に、英国遠征の布石になるレースだ。今年、前

述したように、テイクオーバーターゲットが出ていないので、牝馬でクインズランド州出身(幸いにも、メルボルンに長期遠征中のため出走可能)の、かつてゴールドエンジュビリーでしのぎを削ったゴールドエディションと、ミスアンドレッティとの一騎打ちと見られていた。しかし、レース前にミスアンドレッティは出走取り消しになり、対決は先送りとなってしまった。

レースに勝ったのは、真っ白な顔をしたアパचेキャットであった。このアパचेキャットは、面白い顔だけにファンも多い。名前は、古い西部劇に出てきたアパッチ族の持つ馬の名前に由来するという。この優勝で、更にキャットファンが増えたのではないだろうか。今回のレースで、ゴールドエディションは4着で、レース後直ぐに怪我が発見されて、引退が発表された。

アパचेキャットは、この後2月16日、かつてシリーズに含まれていたGIティンバーコープ・オーストラリアステークスにも優勝して、新しいスプリントチャンピオンとしての地位を不動のものにした。騎乗したのは、香港で薬物を使用していたとして長期の騎乗停止になっていたが、その処分からあけ、メルボルンでの再起を期したクーリー・ブラウン騎手だ。今回の騎乗は、それまで騎乗していた昨年のメルボルンカップの覇者マイケル・ロッド騎手が、2月になって病気を発症、騎乗が出来なくなったための代役だった。ブラウン騎手は、「マイケルには本当にすまない。彼の不幸が、僕の幸運になってしまった」と語る。

この時点でのアパचेキャットの成績は、27回出走して、GI優勝2回を含む13勝、賞金総額も200万ドルになった。この後は、オーストラリアを代表するスプリントレースの1つ、GIのニューマーケットハンデに出走予定であったが、58.5kgというトップハンデのために出走を取りやめた。管理するG.ユーレル調教師は、英国遠征は取りやめて、これからシドニー、ブリスベンの秋から冬の競馬カーニバルに参戦すると発表した。しかし、その後は、もしかすると、日本への遠征もあると示唆している。日本でも、あのヘンな顔のキャットは、恐らく大変な人気になるはずだ。

アパचेキャットが英国遠征を止めたた



ライトニングステークスはアパचेキャットが優勝

ライトニングSの表彰式



めに、ベテラン馬、テイクオーバーゲットが英国遠征、このシリーズにまた参戦することになった。馬インフルエンザのために、ライトニングステークスへ出走ができずに、機嫌の悪かったジャンiak師だったが、アパチェキャットが英国遠征を取りやめ、大幅に輸送費が出るということを知って、早速、遠征を決めている。もっとも、テイクオーバーゲットも、アパチェキャットと同様に、今年のシドニーのスプリントレースを狙っている。これからの予定は、4月、シドニーのG I、R J スミスステークス(1200m)とオールエイジドステークス(1400m)に出走して、5月18日開催のクリスフライヤー・インターナショナルスプリント(シンガポール)に出走、その後、英国に向かう予定。そして、6月17日に、今年で3回目の参戦となるロイヤルアスコット競馬場でのキングズスタンドステークス(1000m)、その4日後に行われるゴールデンジュビリーステークス(1200m)に挑戦するという。

■08アジアマイルチャレンジ始まる

グローバルスプリントチャレンジのオーストラリアでの緒戦が始まると、続いてアジアマイルチャレンジのシリーズが始まる。4カ国で開催されるこのシリーズは、総賞金が1250万USドルという最も高額の世界レースシリーズとなった。第1戦目は、3月1日にオーストラリアで開催されたフューチュリティステークス。2戦目は、3月29日、ドバイのデューティフリー。そして3戦目が、4月27日の香港のチャンピオンズマイル、最後は、6月8日に日本で行われる安田記念となる。この全レースに優勝すると、400万USドルのボーナスも加えられ、総額で約900万USドルという気の遠くなるような賞金を獲得することになる。

フューチュリティステークスの昨年の優勝馬は、ゲイ・ウオーターハウス調教師の管理するアクアダモール。ニュージーランドのシーチェンジやコックスプレートの優勝馬になったエルセグンドを破っている。ちなみに、シーチェンジは、今年はドバイのデューティフリーに出走することになっているという。レースは、デヴィッド・ヘイズ調教師の管理するニコネロが、久方ぶ



ニコネロで優勝し、大喜びのクレイグ・ウィリアムス騎手

りにG I 優勝に輝いた。2着は、ティアズアイクライ。3着は、ライトニングステークスで、ゴールドエディションの後塵を拝したミスフィンランド。ここ数戦の惨めな負け方に、引退との声も上がったが、デヴィッド・ヘイズ調教師は、「やはり2000mが彼女の最適距離」と、3月8日のオーストラリアンカップに、クレイグ・ウィリアムス騎手を騎乗させて出走させた。結果は？ 5着。結局、このレースが引退レースとなった……。

ところで、このフューチュリティステークスで勝ったニコネロには、実は、ミスフィンランドの5連敗は彼の責任だとオーナーから降ろされていたクレイグ・ウィリアムス騎手が騎乗していた。ニコネロは、7歳のダンゼロ産駒。これまでの重賞レース優勝は2回、まあまあ堅実なマイラーというべきだろうか。G I 優勝は、一度で、2006年パースに遠征して勝ったWATC フルーツンヴェジステークス(1800m)。また、2005年には、G II 2005 MVR C ウォーターフォード・クリスタル・マイル(1600m)を勝っている。ただ、いずれにしても、ニコネロがオーストラリアを代表するチャンピオンマイラーというのは少々辛いものがある。このところの馬インフルエンザ騒ぎで、チャンピオン達がまだ正常にレースに戻ってきていないことも、彼のような地味な馬が勝つ原因かも知れない。しかしながら、このレースで42万ドルを手にした関係者は、ドバイ遠征へ意気盛ん。フィールズオブオマーとパーフェクトプロミスに続いてのドバイ遠征となるのだが、この2頭も、やはりオーストラリアのトップマイラーとは言



先頭でゴールを掛け抜けるニコネロ(フューチュリティS)

いがたかったので、彼らに続いて行くのかと思うと、オーストラリアの競馬ファンとしてはちょっと……複雑。デヴィッド・ヘイズ調教師は、遠征後、ニコネロをシドニーの重賞レース、ジョージライダーステークスとドンキャスターハンデに走らせることを考慮しているようだ。

グローバルスプリントチャレンジともアジアマイルチャレンジの話でもないが、オーストラリアで今評判なのは、3月8日に、フレミントン競馬場で開催されたG I のスプリントレース、ニューマーケットハンデを勝った3歳のウイークエンドハスラー。騎乗したロウィラー騎手も、ロス・マクドナルド調教師も、どちらも、この馬は、長い距離を走れると信じて疑わない。師は、この馬をメルボルンカップに登録している。オーストラリアの競馬の歴史上、このニューマーケットハンデとメルボルンカップを勝ったのは、1884年のマルアだけだ。ウイークエンドハスラーは、4月、シドニーで開催されるドンキャスターハンデに出走。1600mの距離に挑戦する。そうそう、ドバイ遠征して戻ってくるニコネロと対戦するかも。ちょっとこれは興味ある戦いになりそうだ。



フューチュリティSの優勝馬ニコネロ



フューチュリティSの表彰式



ニコネロのオーナー、ピーター・デヴィット(左)とレスリー・ゴードン(右)。デヴィッド・ヘイズ調教師(右2人目)と騎手のクレイグ・ウィリアムス騎手